



われらが結ぐ白川郷かややねプロジェクト 第3回茅刈りイベント大成功！！

11月10日に、村が整備を進めている鳩谷の茅場において、みだしのイベントを開催しました（主催は、守る会。共催は、村教育委員会、日本ナショナルトラスト、合掌保存財団）。今回で3回目となります。

合掌家屋を保存継承するには、沢山の茅が必要となります。しかし、秋の茅刈りシーズンは観光繁忙期と重なり、なかなか茅刈り人足が集まらない。同様に自分の家の茅場の維持管理ができない。さらに高齢化による刈り手の減少。よって村外からの茅に頼り、村内産の茅の自給率が減少といった課題をかかえています。

そこで、茅の村内自給率を高めることを目的に、村及び合掌保存財団が茅場の造成に着手。同時に茅の刈り手を確保するため、トラストが村外からの支援者を募集。加えて守る会では、茅刈り後継者の育成を目的に地元住民への参加を呼びかけ、茅刈りを行いました。



【参加者で記念写真、パシャ！】



【黙々と茅を収穫！！】

今回の参加者は、トラストが募集をかけた村外参加者80人、守る会や教育委員会が募集をかけた村内参加者40人、総勢120人。多くの人々の力を結集し、1300束の茅を収穫しました。参加者及び茅の収穫数とも、今回が最多となります。多くの皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。作業後は、荻町公民館にて直会。外部支援者と住民が一緒になって呑み語り、親交を深めることができました。



【呑み語り、親交を深める！】

今回のイベントの成果は、多くの茅が収穫できた。多くの村外参加者の支援が得られた。参加者のリピーター率が高まってきた。等があげられます。

また、今後の課題は、村内の参加者をもっと増やしたい。沢山の茅が収穫できたが、来年はより質の高い茅の収穫をめざしたい。村の造成地以外にも守らなければいけない茅場があるので、その草刈り等の支援ができないか。等が上がっています。

茅刈りイベントは、今後も継続して開催したいと考えています。結の茅刈りで収穫した茅が、世界遺産の合掌家屋に活用されます。茅刈りイベントを結の屋根葺きのように、みんなが集まりみんなで汗してみんなで楽しむ一大行事に育みたいと願っています。今後も多くの皆様にご理解ご参加いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。また、ご意見等守る会へお寄せください。 [文責：和田]

守る会活動スローガン ～ 守る・くらす・つなぐ ～

- ①守る：住民憲章を基盤とした、世界遺産である合掌家屋と農山村の景観保全
- ②くらす：結の精神が根ざした共同体と、景観に調和した豊かな住民生活の向上
- ③つなぐ：故郷から学び、国内外の交流から学び、未来への継承者を育成

☆11月の協議事項（現状変更申請に関わって）☆

****・・・車庫建替え

氏子総代会長・・・側溝新設、砂利敷コンクリート打ち

リレーコラム①守る会への参画を通して思うこと、やってみたいこと（8番手）

「茅刈りイベントに参加して気づいた『地域をつなぐ』楽しさ！」

守る会企画部長 鈴木 智也さん

茅刈りイベントに参加された皆様、お疲れ様でした。僕は今回、守る会の役員ということもあり、初めて茅刈りイベントに参加しました。合掌の屋根の葺き替え同様、重労働で大変な作業でしたが、参加者全員の「結」の心で過去最高の1300束を刈り上げることができ、茅刈りへの参加が地域をつなぐということを実感することができました。参加して思ったことは、現在ほぼ村外に依存している合掌造りに使用する茅の村内自給率を上げるべく、貴重な茅の刈り取り人材の確保を行っていくため、村内の参加者、特に荻町で合掌を持っていて、茅場を所有していない方になるべく参加していただけるように、守る会として来年度以降呼びかけていきたいです。



リレーコラム②趣味に仕事に全力投球！その思いが白川村をつなぐ（7番手）

「“皆で守る”村、白川村にご縁があって本当に良かった！」

坂井 美夕紀さん

白川郷コンのポスターを、旅行で立ち寄った今藤商店さんで立ち飲みをしながら眺めたのをきっかけにご縁があり、嫁に来てはや4年目。合掌造りに住み、民宿を手伝い、三味線を習い、山菜採りに行き、お祭りでは民謡を踊り、お酌をし、演芸に出て、もちろんどぶろくも飲み、茅刈りに参加したり、屋根雪おろしをしたり、雪上運動会に燃えたり、縁結人の会に入ったり、子どもも生まれ、さくら山荘で働き、農協で買い物をし、組の集まりに当たり前に参加する。飛騨弁も少しナチュラルになってきたと思うし、隣の県まで買い物に行くのも、豆腐がやたら堅いのに、カエルの数にも、夜の暗さにも慣れました。同じ空間に居るのも嫌だったカメムシも追い込まれたら大量の紙でトイレに流せるまでになりました。もちろんまだまだ知らないことも経験していないことも沢山ありますが、そんな白川郷での暮らしが心から好きです。村外出身者だからこそ思える、こんなにユニークで刺激のある暮らしってそうそう無いのではないかと。そして我々1700人弱の村民は日本の中でも選ばれし人間であり、とても貴重な体験をしているのではないかと。そう考えると1日1日がとてもウキウキする反面、今後の白川村に対しての責任も感じています。白川村はただの山奥の田舎ではなく“皆で守る”という目標が明確な場所。それも未来永劫。では何を守るか？この村の全てを？白川郷が白川郷である意義は合掌造り家屋だけではなく、村の歴史や環境、そこに生きる人々の生活全てだと思っています。その真の価値を見失わないように、自分にできることは何かを考えて暮らしていきたいですし、これからの白川村をしょって立つ村民の一人に、私もなれたらいいなと思います。



今回は、村の様々な活動に積極的に参画していらっしゃるお二人にお話を伺いました。村で生まれ村で育ってきた視点と、外から村へ嫁いできた視点と、感じることはそれぞれですが、地域活動への参画を通して、村の良さや価値、守るべきものやつなぐべきものをご自身の中で明確にされているからこそ、目標をもって日常を楽しむことができているのではないかと、お二人を見てるとそう思います。11月に開催された茅刈りイベントには「白川村に貢献したい」という村外参加者がたくさんいらっしゃいました。鈴木さんと坂井さんも参加してくださったのですが、そのような思いを持つ村外の方とお話する時間がたくさんあり、自分たちの暮らしを客観的に考える大変良い機会になったのではないのでしょうか。「地域をつなぐ」中心となるのはもちろん私たち村民ですが、様々な立場の方と関係を築き、色々な意見を聞いていけたらいいなと思います。

[文責：福田]

＝ 11月の活動報告 ＝

- 11月 8日 白川郷学園茅刈り体験（守る会有志支援）
- 11月 8日 10月定例会・役員会
- 11月 9日 茅刈り前夜際『活動説明会』（公民館）
- 11月10日 第3回茅刈りイベント（120名参加）
- 11月11日 茅刈り村外参加者民謡体験
- 11月12日 ねそ11月号配付 18日 旧寺口家雪囲い
- 11月15日 白川郷学園6年ふるさと学習（会長） ↑
- 11月24日 役員会（三村交流会に向けて）
- 11月27日 荻町区会計監査 28日 役員会 29日 三役会

◎区民の皆様へ・・・建物や土地などの現状を変更する場合は、許可が必要です。必ず現状変更申請を行ってください。申請書は守る会定例会の2週間前までに、各組委員に内容を説明の上、委員又は教育委員会に提出を。これは、遺産の保全と未来への継承のためとても重要なことです。皆さんのご理解ご協力をよろしくお願い致します。

※ 1月定例会は、17日(木)公民館にて開催を予定しています。